

第三回 荒川区区政改革懇談会

グループ討議会議録：瑠璃

【日時】

9月13日（火）19：00～21：00

【次第】

ステップ1：はじめに

ステップ2：グループディスカッション
（第一部）

【場所】

荒川区役所 304会議室

ステップ3：グループディスカッション
（第二部）

ステップ4：その他

ステップ1：はじめに

【自己紹介】

前回の欠席者による自己紹介を行った。

【前回の話し合いの内容確認】

コンサルタントにより、前回の話の内容確認、今回の懇談会の趣旨説明がなされた。

ステップ2：グループディスカッション（第一部）

前回の話し合いの内容を踏まえて、こうなって欲しい荒川の姿を深く話し合うこととした。「まちづくり」と「暮らし・安心」の2つのテーマ別に、グループディスカッションをして、代表者が発表した。

進め方として、参加者を2つのグループに分け、発表者・司会を決め、特に気になる点を絞り込み、それに対する「こうなったらよい」（望ましい姿）、「こうすればよい」（提案・アイデア）を出してもらった。

【まちづくりグループの発表内容】

まちづくりの今後に繋げていきたいというところを話した。そこで出たのは荒川のアクセスの良さを有効に活用したら良いのではないか、というところ。特に区民だけではなく、外部の人が良い街だと思ってくれるような発展が望ましい。区内の人が何気なく通り過ぎているようなところも区外の人から見ると魅力的で埋もれた資源だったりするのかもしれない。また、荒川ならではの良い点（例えば、公園・下町コミュニティ等）を再発見しながらアピールすることが重要だ。それは改善していくべきところにも繋がり、新しいものを導入し、新たな魅力が生まれるようにすれば良い、という話になった。バリアフリー化を進め、住みやすい街をつくっていったら良いのではないかという話も出た。最終的に、このような視点でやっていったらどうかというものでは、観光的な視点で見直すと、また街自体が個性的になり活性化し、面白くなるのではないかという話になった。

【暮らし・安心グループの発表内容】

福祉を中心に話し合いを進めた。大きなテーマ過ぎてあまり時間が無く、この時間帯のテーマに福祉を設定したことは失敗してしまったかなと思ったが、まず、最初に、福祉とは何であるか、また誰に対して、誰がするのが福祉なのか？という観点で話しを進めた。結果として、細かいアイデア・策は出てきたが、改善の方向策が出たというところまでには話しが進まなかった。

福祉は自助・共助・公助の三本柱で成り立っていると思うが、今は行政が何をしているのか、また住民は何ができるのか、我々の知識としてわからない状態になっている。話しが出たのは町会などの下町のコミュニティが中心になって地域の一人暮らしの高齢者の安否、状況確認を徹底するというところ。また、行政側はどこに高齢者がいるのか、民生委員がどんな活動をおこなっているのかの状況把握をし、住民と行政との間でお互いに情報を提供し合うことを徹底する必要があるのではないかという話になった。そうしていくことで、いざという時の対策に直結すると思う。福祉といっても情報があまりない。よって、介護される方もするほうもわかりやすい情報を得ることができる、そして浸透させるといったことが一番の対策ではないかと思う。

もう一つはバリアフリーの話があった。現在、荒川区は各所で開発が行われ、新しいマンションなどが立っている。その中でバリアフリーということは、今の時代既に考えられて作られているとは思いますが、いざ街中を見ると、まだできないところがある。路地裏、駅、道路の段差など、高齢者、障がい者、ベビーカーを利用している子育て中の母親等に関わってくる問題だ。福祉という観点で話し合いを進めたが、全体に繋がってくる課題ではないかと思う。

ステップ3：グループディスカッション（第二部）

メンバーを入れ替え、「産業」と「情報」の2つのテーマ別に、グループディスカッションをして、代表者が発表した。

【情報グループの発表内容】

区報 Jr は読みやすいとの評判があるが、そんな良いものがあるのなら、もっと住民にアピールすべきではないか。

結論で言うと、とにかくわかりやすい情報発信をすべきである。そのために、新しい情報をスムーズ・スピーディに発信する必要がある。なおかつ、その情報がいつ出されたか、どうなったかと言った履歴も必要である。また、荒川の情報を区内だけではなく、区外にも発信することも必要ではないか。例えば、区報を区外にも置くなどで情報発信してもよいのではないかという意見が出た。情報発信方法としては、広告塔として駅を活用したり、コミュニティバスの外側を活用するのもよい。

他には、荒川区の情報誌などがあっても良いという意見が出た。他区では書店で発行している情報紙がある。荒川区にもそういう物があってもよいのではないか

【産業グループの発表】

産業といっても、人と人との交流が生み出す産業があったり、荒川独自の伝統を引き継ぐ産業があったり、モノを生み出す産業があったり、人が訪れることによって成り立つ産業があったりするが、荒川区民としては、外から来る人に荒川の良さ、地域の良さについて知ってもらえるような産業を育成すべきである。

荒川区の住商工が入り組んでいる状況というのは絶対的な特徴と言える。江戸時代やそれよりも

前から引き継いでいる伝統産業で生業を立てている方もいる。それから荒川の持つ住環境・商環境・不動産環境がうまくかみ合い荒川に根を下ろして立ち上げたベンチャー企業の方々もいる。

絶対的にこれからアピールしていきたいというのは観光の面。隣の台東区は観光資源の宝庫なので、その人の流れを日暮里等だけでなく、荒川方面にも来てもらえるようにしたい。

産業は、情報をうまく利用していかなければ成り立たないものである。それを区内にアピールすることも大事だが、インターネットなどを利用して、区外の方々や世界の方々へ発信したい。平成二十数年に日暮里と成田が三十数分で繋がるといった交通システムもできる。谷中の旅館などは成田からダイレクトにかばんを持って泊まれるようにしようとしている。これも情報発信にかかることだろうが、荒川もうまく使って産業を表に発信していったらどうか。荒川区の中でも埋もれているものがあると思う。それを発掘して、産業の括りに取り入れ、情報を発信していくことが大切だと思う。

荒川のイメージは外国人にとってはミステリアスなまち、お寺のイメージが強い、物価が安く、アパレル材料も安く手に入り、それを利用して服も作れる、ということ聞いたことがある。特色もあると思うので、いかに荒川の産業を区内だけでなく区外へアピールしていくかが大事である。

「観光産業」、「伝統産業」などの切り口から荒川のイメージを作り上げていったら良いのではないかな。

ステップ4：その他

【次回について】

今回は「まだ話し合っていないジャンルについて話し合い」、「中間発表会の内容作り」を行うことになった。

日程は、10月12日(水) 19時より。